

令和3年度 石川県立小松特別支援学校 自己評価計画書（中間評価）

| 重点目標 | 具体的取組（主担当） | 評価の観点 | 実現状況の達成度判断基準 | 判定 | 分析及び今後の課題（案） |
|---------------|---|---|---|--------|--|
| 1 指導力の向上 | 【ICT活用による授業改善】 GIGAスクール構想や学習指導要領を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けて取り組む。（教務課） | 【努力指標】 タブレット端末等のICT教材を活用した効果的な授業展開や教材などを検討し、授業実践につなげている。 | 児童生徒がタブレット端末を活用する授業を通して成果や課題が整理できた教員の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | B以上で達成 | C 教員に対するアンケートの結果、基準を達した教員は69%であった。成果としては、活用することで生徒が苦手さを補充したり、アプリに興味をもって意欲的に活動したりする姿から、授業の目標を達成する手段として有効であることが分かった。不十分と判断した教員は、高等部で設備が進んでいないため実践の機会が限られること、通信環境の不安定さや教員の技術不足等が理由であった。今後は、学部の実情に応じた実践を積み重ね、課題等を整理していく。 |
| | | 【満足度指標】 ICTを活用した授業が積極的に行われている。 保護者アンケート | 授業参観や通信等でICT活用の様子がわかり、取組に満足している保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | B以上で達成 | B 保護者アンケートの結果、ICT活用の取組についてB（概ね満足）以上の評価は、小学部72%、中学部75%、高等部63%であった。ただし、見えていない、よく分からないとの回答や無回答の保護者も多くいた。今後は、保護者に取組の趣旨を再度広報したり、成果が分かりやすい配付物の工夫を行ったりする。また、授業参観を通じて活用場面を紹介する方法も検討する。 |
| | 【組織的、計画的な研修】 タブレット端末を用いて児童生徒の学校生活や学習活動が充実したものとなるよう、端末やアプリの活用に関する研修会を実施する。（情報課・研修研究課） | 【努力指標】 端末やアプリの活用に関する研修会を実施する。 | 端末やアプリの活用に関する研修会を開催した回数が A 4回以上 B 3回 C 2回 D 0～1回 | B以上で達成 | A タブレット端末やアプリの操作方法等についての研修会を9回開催した。短時間の研修、オンライン研修、若手教員による研修など、多様な形態・内容を研修を設定したことで、開催回数を増やすことができた。今後もタブレット端末を活用した授業実践につなげられるように、教員の活用技能の向上を図るための研修を継続的に開催していく。 |
| 2 災害に備える | 【防災教育の充実】 万が一の災害に備え、学校安全課が年間指導計画を立案し、各学部で児童生徒の実態に即した防災教育に取り組む。（学校安全課） | 【成果指標】 実態に即した目標を設定し、各学部で防災教育を実施することにより、児童生徒の防災への意識が高まったり、具体的な行動の理解が進んだりしている。 | 実態に即した防災教育の取組を通して、児童生徒が防災への意識の高まりや具体的な行動の理解が進んだと感じる教員の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | B以上で達成 | A 教員に対するアンケートの結果、①避難行動の理解が進んだ、やや進んだ教員は96%、②児童生徒の防災意識が高まった、やや高まった教員は94%となった。今年度は、各学部で防災・安全学習年間計画をつくり、避難訓練の事前事後学習、防災リュックの活用等を行いながら、時機をとらえて防災に関する内容を児童生徒が学習することに取り組んでいる。後期も計画に沿って取組を進めながら、教師も児童生徒も防災意識の向上につながる実践を工夫していく。 |
| 3 心身ともに健康に過ごす | 【感染症対策の徹底】 洗面所の使い方について児童生徒の実態把握を行い、改善目標を設定して取り組む。あわせて掲示物や保健だより等で啓発を行い、家庭と連携して定着を図る。（保健体育課） | 【成果指標】 感染症予防のための洗面所の使い方に改善が見られる。 | 感染症予防のために、洗面所の使い方に改善が見られた児童生徒の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | B以上で達成 | D 担任に対するアンケートの結果、基準を達成した割合は高等部は68%で目標に近付いたが、小学部18%、中学部38%で目標に遠い結果となった。小・中学部では、食事に時間がかかる等の理由で食後に指導時間が十分にとれない状況があった。今後は、定着を図るために指導時間を確保したり、動画を作成し授業で取り上げたり、校内放送で呼びかけたりしながら感染症対策の徹底を図る。 |
| | | 【満足度指標】 学校での感染症対策を理解し、対応に満足している。 | 感染症予防のための取組に、満足している保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 | B以上で達成 | A アンケートの結果、本校の感染症対策について理解し十分に対策を行っていると感じている保護者は、99%（A+B）と高い数字であった。今回のアンケートで保護者から質問もあったことから、今後も個別に相談に応じるとともに感染症対策の理解・周知に努めていく。 |
| | 【児童生徒の心のケア】 感染症に対する正しい知識を持ち、感染症に対する差別や偏見を防ぐ。（保健体育課・生徒課） | 【努力指標】 各学部で、児童生徒の実態に即した感染症の正しい理解や差別偏見を防ぐための授業を実施している。 | 新型コロナウイルス感染症に関する授業を実施した回数は A 4回以上 B 3回 C 2回 D 1回以下 | B以上で達成 | C 全校児童生徒対象に保健体育課1回、生徒課1回実施した。また、各部各教科等で随時取り組んでおり、新型コロナウイルス感染症を正しく理解できている児童生徒が増えている。今後、生徒課による人権教育講話、冬季休業前集会で実施し、各教科等でも繰り返し授業を行いながら、差別や偏見の防止に取り組む。 |

令和3年度 石川県立小松特別支援学校 自己評価計画書（中間評価）

| | | | | | |
|---------|---|--|--|--------|--|
| 4 業務の改善 | <p>【業務の効率化と環境整備】 ICT活用と環境整備を進めることで、情報共有、データ管理、円滑な引継ぎ等の業務の効率化を図る。 (教頭)</p> | <p>【成果目標】 各教員が業務の改善に向けて自己目標を設定し、ICT活用や環境整備を進め、業務の効率化につなげている。</p> | <p>自己目標を設定し、ICT活用や環境整備を進めることで、業務の効率化につながったと感じる教員の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p> | B以上で達成 | <p>A</p> <p>「業務の改善シート」で挙げた自己目標について、改善が図られたと感じた教員の割合は86%であった。書類の整理やToDoリストで優先順位をつけるなどの個人での取組の他、Office365やタブレット端末を活用して新しい方法で業務を行ったことや、教材製作や消毒などをスクールサポートスタッフへ依頼したことによる負担軽減などで効率化を図ることができた。効果的な取組については共有しながら、引継ぎ業務についても効率化が図れるよう、各課とも連携しながら引き続き業務改善の取組を進めていく。</p> |
|---------|---|--|--|--------|--|